



やすおかまさひろ 安岡正篤の略歴

- 1926年(大正15年) 29歳
金雞學院(きんけいがくいん)を創立
- 1931年(昭和6年) 34歳
日本農士学校を埼玉県嵐山町に開校
- 1945年(昭和20年) 48歳
終戦玉音放送の草案加筆
- 1949年(昭和24年) 52歳
師友会結成
- 1960年(昭和35年) 63歳
世直し祈願・万燈行大会を伊勢で挙行
- 1983年(昭和58年) 享年85
「平成」の元号の発案者と言われている。

自らの学究を極め、生涯を有為の人材育成に捧げた
昭和のリーダーたちの精神的拠り所となった教育者として。

安岡正篤(やすおかまさひろ)は1898年明治三年(大阪)に生まれました。若くして漢学に通じ、『王陽明研究』『日本精神の研究』等の著作で世に知られます。大正末期、東京小石川に「東洋思想研究所」を、次いで1927年(昭和二年)「金鶏学院」を創設し、自らの学究とともに、生涯を有為の人材育成にさげました。

1931年(昭和六年)には日本農士学校を埼玉県菅谷の地(現嵐山町)に開校します。その狙いは、浮薄な都市文明を離れ、大地にしっかりと足を着けて東洋の古典・哲学を学び、己を修めて国家社会の為に真に役立つ『無名にして有力なる』人材の育成でした。

戦後は「師友会」(後に「全国師友協会」に改称)に

拠り、全国各地での教化活動に尽瘁(じんすい)、一燈照隅行を展開します。

1970年(昭和四五年)「財団法人郷学研修所」を創設して郷学の振興に努めると共に、道を求める人や有縁の人に古聖先賢からの道を伝えることに尽力。政財界をはじめ各界リーダーの啓発教化指導に当たり、昭和全期を通じて「二世の師表」「天下の木鐸」と仰がれました。

現在は著書、講演録も多く出版され、人間として、また国家としてのあるべき姿を求める人々に、深い感動と人生の指針を与えています。
1983年(昭和五八年)12月に安岡は八五歳の生涯を閉じますが、その思想や哲学はいまも後進の方々の中に宿り、現在に至ります。



電車の場合：東武東上線「武蔵嵐山」駅より徒歩約15分。国立女性教育会館の西隣り。
お車の場合：嵐山小川ICより国道254バイパスを東松山方面へ。約10分。駐車場有り。

やすおかまさひろきねんかん・おんしぶんこ 安岡正篤記念館・恩賜文庫



〒355-0221 埼玉県比企郡嵐山町菅谷671番地 MAP▶

開館時間 10時～16時

休館日

月曜日・火曜日 および お盆休み(8/13～16)・年末年始(12/28～1/5)

入館料

一般 500円 | 学生 300円 (会員・寄付者様を除く)
団体(10名以上/1名様) 一般 400円 | 学生 200円

新型コロナウイルス対策 <ご協力をお願い>

- 昨今の新型コロナウイルスの状況をふまえ、下記をご協力をお願い致します。
- ① マスク着用 ② 検温 ③ 手指の消毒 ④ 緊急連絡先の記載
 - ⑤ 観覧者同士の距離の確保 ⑥ 会話を控えめに
- ※混雑の状況により入場制限、閲覧時間制限等を行う場合がございます。
※新型コロナウイルスの蔓延により「緊急事態宣言」等が出された場合は、行政指導に従い休館となる場合がございます。

御来館に際しては、ホームページでご確認いただくか事務所へお問合せください。

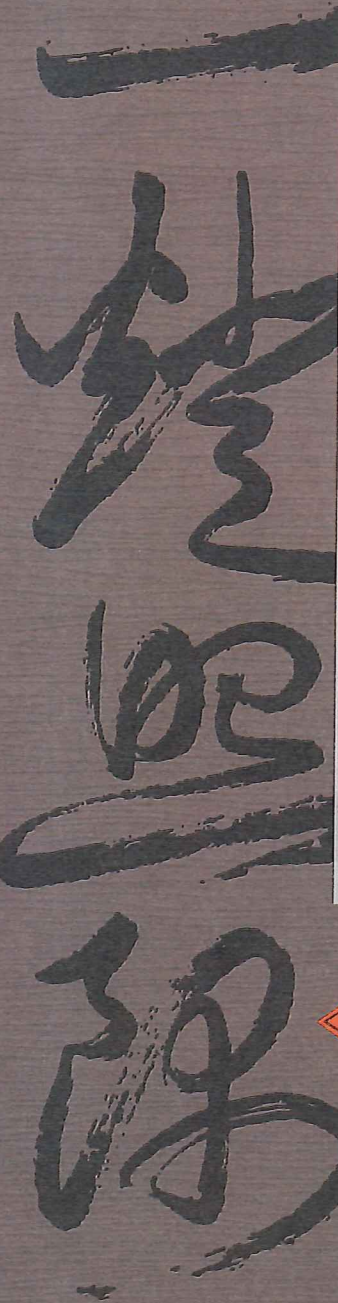


<https://kyogaku.or.jp>

運営事務局 公益財団法人 郷学研修所・安岡正篤記念館 ☎0493-62-3375

やすおかまさひろ 安岡正篤記念館・恩賜文庫

埼玉県
嵐山町



一燈照隅

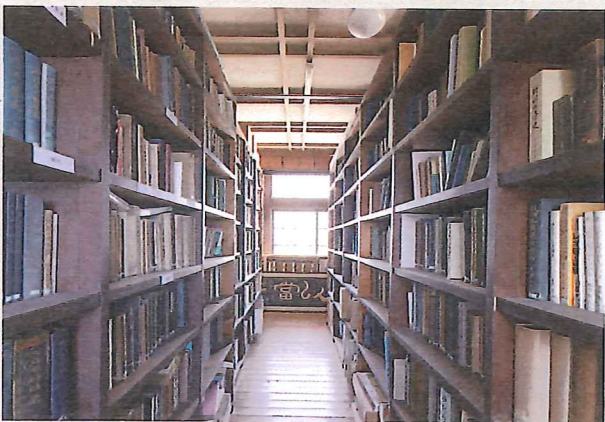
我々は先ず我々の周囲の暗を照らす一燈になろう。
微かなりとも一燈を照らす。一人一燈なれば、萬人
喜ばず。日本は漸ち明るくなる。――安岡正篤
からの現代を生きる私たちへのメッセージです。



恩賜文庫(おんしぶんこ)

昭和八年十一月十日、国民精神作興詔書発布の十周年記念に当たり、畏くも天皇陛下には全国十七の社会教化団体に対して、宮中から御内帑金が下賜されました。十一月十八日に金鶏学院理事者協議の結果、日本農士学校に恩賜文庫を設立されました。

そして、約一年を過ぎて、昭和九年十一月二十五日、恒例による農士学校社稷祭に兼ねて、恩賜文庫竣成奉告祭が無事に進行されました。



恩賜文庫では、安岡正篤の愛読した「和綴じ本」をはじめとする書物の整理を行い、閲覧し易くなりました。また、所蔵の書籍を実際に手に取ってお読みいただくこともできます。記念館と併せて是非ご覧ください。



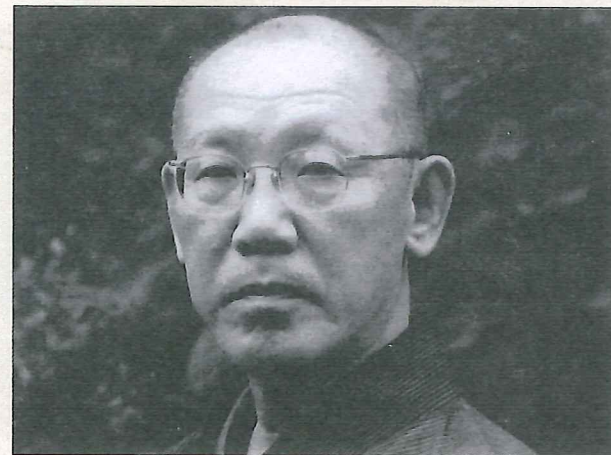
安岡正篤記念館

安岡正篤記念館は、一世の師表、天下の木鐸と仰がれた安岡正篤の修己治人の足跡を明らかにし、その不滅の人間学を後世に伝えるために、平成三年に建設されました。

生い立ちから学生時代、金鶏学院及び日本農士学校時代、終戦に臨んで日本農士学校の学生に与えた告示や終戦の詔書刪修など戦中戦後の秘話、戦後の全国師友協会時代の資料などが展示されています。



令和3年は、農士学校開校30年、郷学研修所50年。記念館・恩賜文庫移設30年と3つの大きな節目の年となりました。当財団ではこの年を、安岡正篤の精神を次世代に継いでいく重要な転換期を位置づけています。



安岡正篤の精神を次世代に継ぐために

東洋の思想哲学に道遙し、抛り所としていた安岡正篤は「人間いかに生くべきか」を一生をかけて追求し続け、次代を担う人物の育成に情熱を注ぎました。その根底にあるものは、東洋古典や先哲の教えに基づく人間学です。それはまず己を修めること、さらに国家社会のために尽くせる人物になることを目指しています。修養の学、活学とも言えます。

その中の一つに安岡正篤が唱えた「郷学」があります。それは地方郷党の先哲・賢人たちを顕彰し、その風土に培われた学問を振興して志気を奮い起こすことです。当財団はまさにその活動の本丸と言えます。安岡正篤の想いに直接触れられる場所です。人物から学ぶことを最も好み、実践してきた安岡正篤の足跡をたどりながら、皆様それぞれにひとときをお過ごし下さい。

公益財団法人 郷学研修所・安岡正篤記念館 理事長 安岡 定子

